

連載企画 SDGs 取り組み事例紹介

杉江建設工業株式会社

～建設業を通じて地域に豊かな暮らしを創造したい～



【会社概要】

1953年（昭和28年）創業。愛知県西尾市に本社を置き、土木一式、上下水道工事、耐震工事等を手掛けており、安全な社会基盤の構築に広く貢献している。

祖業である公共工事への参画が、SDGsにおける17の目標に多く合致しており、更に環境保全活動や女性活躍に向けた取り組みにも注力している。

自然環境との共生と、災害への対応等が求められるとともに、かつてないスピードで変化する社会において、同社ではこれを成長の機会と捉え持続可能な社会を目指している。

【話し手】

杉江建設工業(株) 専務取締役 杉江康造

—SDGsの取り組みをはじめたきっかけについて お聞かせ下さい。

SDGsの前身として位置付けられるMDGs*が2000年に採択された時にも同じ思いだったのですが、当社が行っている様々な取り組みは、そのままSDGsに重なると認識しています。戦後間もない創業時に多くの水道施設の普及工事に携わる中で、建設業として地域への貢献がいかに大切かを学び、喜びも感じながら会社を発展させてきました。今一度SDGs17の目標に照らしてみると、まず(6.安全な水とトイレを世界中に)が該当します。また、(9.産業と技術革新の基盤をつくろう)、(11.住み続けられるまちづ

くりを)は、公共工事を通じて官民一体となり地域の開発を行なう観点から(17.パートナーシップで目標を達成しよう)等が該当します。

なお、この思いは、社員を集めて社業とSDGsの関係について説明会を行い、改めて認識を持ってもらった上で仕事に取り組んでいただいたところ、社員の社業に対するモチベーションが上がったと感じています。また、(5.ジェンダー平等を実現しよう)についても宣言していますので、今後は女性による一層の活躍に期待し、女性ならではの細やかな気配りや優しい職場の雰囲気づくりに貢献してもらえれば嬉しいと考えています。

❖* MDGsとは❖

2000年9月ニューヨークで開催された国連ミレニアム・サミットに参加した147の国家元首を含む189の加盟国代表は、21世紀の国際社会の目標として国連ミレニアム宣言を採択しました。このミレニアム宣言は、平和と安全、開発と貧困、環境、人権とグッドガバナンス（良い統治）、アフリカの特別なニーズなどを課題として掲げ、21世紀の国連の役割に関する明確な方向性を提示しました。そして、この国連ミレニアム宣言と1990年代に開催された主要な国際会議やサミットで採択された国際開発目標を統合し、一つの共通の枠組みとしてまとめられたものがミレニアム開発目標（Millennium Development Goals: MDGs）です。

——管路更生を通じてSDGsに貢献している事について教えてください。

管路更生工法は、様々な資源の効率化が図れます。（開削による）管きょを布設替える工事と比べると、時間やエネルギー、労力などのあらゆる面が大幅に軽減できるので、まさにSDGsに寄与する工法だと言えます。

また、劣化した既設管路に新しい部材を更生して強度のある管路にリニューアルするため耐震化にもなります。特に交通量の多い主要幹線道路や河川下、鉄道の軌道下を横断するような再度の布設が現実的に難しい場所には、管路更生による計画的な「予防保全」が急務ではないかと強く思っています。



施工している様子

今ある老朽化した管路も社会資本の1つとしてメンテナンスを行って、この先も大切に活用することは、持続可能で災害にも強い地域作りに貢献し、国土強靱化にもつながります。



河川下の管路



ソーラーライト

施工現場においては、ソーラー電池を使うライトを使ってCO₂の低減に努めている他、施工スペースの無駄を省き、少しでもコンパクト化して周辺へ

の負荷を減らすように心掛けています。また、女性専用トイレを設置して、女性従業員が安心して働ける環境作りにも取り組んでいます。



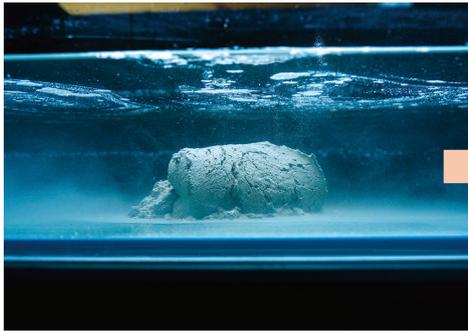
省スペースの現場



女性専用トイレ

一方、様々な要因から、開削工事による撤去も管路更生工法による再構築もできない廃棄管が放置されている場合があります。このような危険な空洞と

なっている管きょ等にもリサイクル材を活用したりリサイクル性の高い工法（デュアルクリート工法*）で空洞を充填する取り組みも行っています。



耐水性確認実験



長距離充填実験



充填した状態

❖*デュアルクリート工法とは❖ **空際の長距離充填が可能！** [NETIS番号CB-240017-A]

本技術は空洞を充填する工法で、埋設管等の廃棄に伴い地下に発生してしまう空洞に対して、生活環境への影響を極力低減しながら経済的に確実な充填を行うことで、道路等の陥没事故等を防止する技術である。その高い流動性から長距離充填が可能であるため従来技術のエアモルタル充填工法と比べて充填ピット数の削減による工期短縮や費用軽減に期待ができる。また、耐水性があり水のある空洞への確実な充填が可能である。

—SDGsの取り組み全般について概説して下さい。

当たり前のことではありますが、1回/月の工程会議の際には「安全対策」についての確認を必ず行ないます。その拠り所となる安全対策マニュアルは、

当社自身で考えたものに加えて下請けで入った時に元請け会社から示された内容からも広く学び、常にブラッシュアップすることを心掛けています(3.すべての人に健康と福祉を)。そして、毎月1回以上実施する安全パトロールの際にも、その安全マニュアルが守られているかどうかをチェックしています。



工程会議の様子



安全パトロールの様子

事務所内の照明をLED化するとともに、使用する電力を再生可能エネルギーである太陽光発電に切り

替えて自給しております。環境にやさしく、且つ災害時の対策にもなると考えています。



ソーラーパネル設置 (本社)

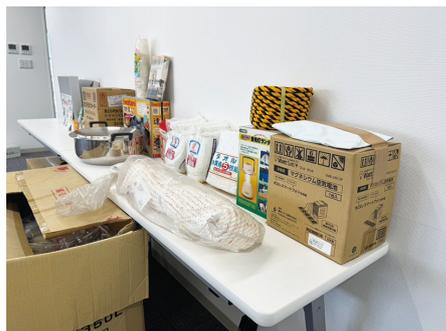


ソーラーパネル設置 (機材センター)

——貴社の目指すSDGs2030年はどんな姿ですか？

今、世の中が本当に早いスピードで変化していると実感しています。下水道分野でも今後はウォーターPPPへの移行が図られていますので、各自治体の動向に注視していく必要があります。更に、気候変動による洪水や地震などの甚大な自然災害も増えてい

ます。このため常に怠りなく準備して、いつでも地域の役に立てる老舗企業としての責任を果たしていかなければなりません。そのためには、SDGsの精神を基本とした社員の育成が何より大切だと考えております。2030年に向けても創業以来の「建設業を通じて地域に豊かな暮らしを創造したい」という気持ちを持ち続けてまいりたいと考えています。



準備しているもの-①



準備しているもの-②



愛知県SDGs登録証

